

製品名: AKAP 110 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab06718

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	AKAP3 AKAP3; AKAP110; SOB1; A-kinase anchor protein 3; AKAP-3; A-kinase anchor protein 110
別名	kDa; AKAP 110; Cancer/testis antigen 82; CT82; Fibrous sheath protein of 95 kDa; FSP95; Fibrousheathin I; Fibrousheathin-1; Protein kinase A-anchoring prot
遺伝子 ID	10566.0
SwissProt ID	O75969
免疫原	抗血清はヒト AKAP3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

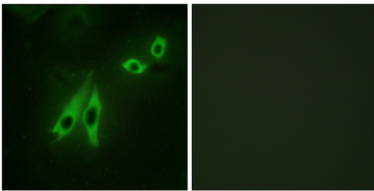
背景

この遺伝子は、Aキナーゼアンカータンパク質 (AKAP) のメンバーをコードします。AKAPは、プロテインキナーゼ A を細胞内の特定の部位に標的化する、機能的に関連するタンパク質ファミリーです。コードされているタンパク質は、プロテインキナーゼ A の R サブユニットおよび精子関連タンパク質とのタンパク質間相互作用に関与することが報告されています。このタンパク質は精子で発現し、精子頭部の先体領域および主要部分の長さに局在します。運動性、受精能獲得、および先体反応の調節因子として機能する可能性があります。 [RefSeq 提供、2013 年 5 月],ドメイン: RII 結合部位。両親媒性ヘリックスを形成すると予測され、R サブユニット二量体上の相補的な表面とタンパク質間相互作用に関与する可能性がある。機能: 受精能獲得や先体反応など、運動機能と頭部関連機能の両方の調節因子として機能する可能性がある。、PTM: チロシン残基がリン酸化されている。類似性: AKAP110 ファミリーに属する。細胞内局在: 精子尾部の主要部にある線維性鞘のリブ。先体節の背側縁。サブユニット: ROPN1 および ROPN1L と相互作用する。組織特異性: 精巣特異的。精子細胞でのみ発現する。、

研究分野

-

画像データ



AKAP3 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。